

日常的になった ICT 教育

副校長 池田 浩

一人 1 台専用タブレット端末が導入され、三年目となりました。本校でも毎日のようにタブレット端末を学習の道具の一つとしてあたりまえに活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を着実に進めています。

導入時を思い返すと、多くの子どもたちは、機器の操作に慣れておらず、操作の説明を聞いたり、文字を入力したりすることで時間を費やしていました。しかし、現在では子どもたちだけでなく、指導する教員もICTスキルが飛躍的に向上し、授業の進め方が大きく変わってきています。

最近の教室の様子を紹介します。教室は、大型液晶モニタにデジタル教科書が映し出され、子どもたちの机上には、教科書とタブレットが置かれています。教室の様子を見るだけで、コロナ禍の三年間で学校の授業形態が変化してきたことを実感します。何より驚くのは、高学年の児童が入力している文章でした。以前は、教科書や資料に載っている文そのままを入力している児童が多く見られましたが、今では一人ひとりが自分の考えを要約し入力しており、文章力がとても向上していると感じます。

ふじみがおか

杉並区立富士見丘小学校

Fujimigaoka
Elementary school

校長 竹内 明子



令和5年12月号

令和5年11月30日発行



一方でICT教育の課題もあります。書くことによる文字の習得、インターネットの利用の情報モラル等です。キーボード入力と書くことのバランスが大切だと考えます。また、いくら学校やシステムで規制をかけても、子どもたちはいずれ自身の判断、責任のもとインターネットを利用していくことになります。小学生の時期からどのようなサイトに注意すべきなのか、使用上のルールやマナーをきちんと学んでおくことはとても重要と考えています。

本校では、9日(土)の学校公開日にゲストティーチャーを迎え、5年生の授業「親子GIGA教室」を実施いたします。参観いただき、ご家庭でもお子さんとインターネットの利用について見守り、お声かけをお願いいたします。

12月の生活目標

めあてをもって、根気強く取り組もう

生活指導委員会

生活指導主任 高崎 英明

学校が移転するなど、大きな動きがあった本年も、ひと月を残すばかりとなりました。子どもたちが元気に年末年始を迎えられるように、今月も事故や病気に気を付けて過ごせるように声をかけていきます。

さて、年の初めに立てた目標を子どもたちは覚えているでしょうか。子どもたちの多くが、それぞれに抱負と期待をもって本年のスタートを切ったことと思います。今月は、子どもの変化、成長の様子をご家庭で一緒に振り返ってみてください。努力できた点や成長した点は具体的にほめ、課題などがあれば確認してください。こうした共感的な振り返りを通して、子どもたちは「なりたい自分」に向けて、残りの日々をどう過ごしたらいいかを考え、自ら気付く力、感じる力を身に付けていきます。

学校においても、子どもたちと一年のまとめをしていながら、次の一年がさらに成長できるように支援していきます。